

平成 2 4 年度

公営企業会計決算の概要

平成 2 5 年 1 0 月 2 日

島 根 県 企 業 局

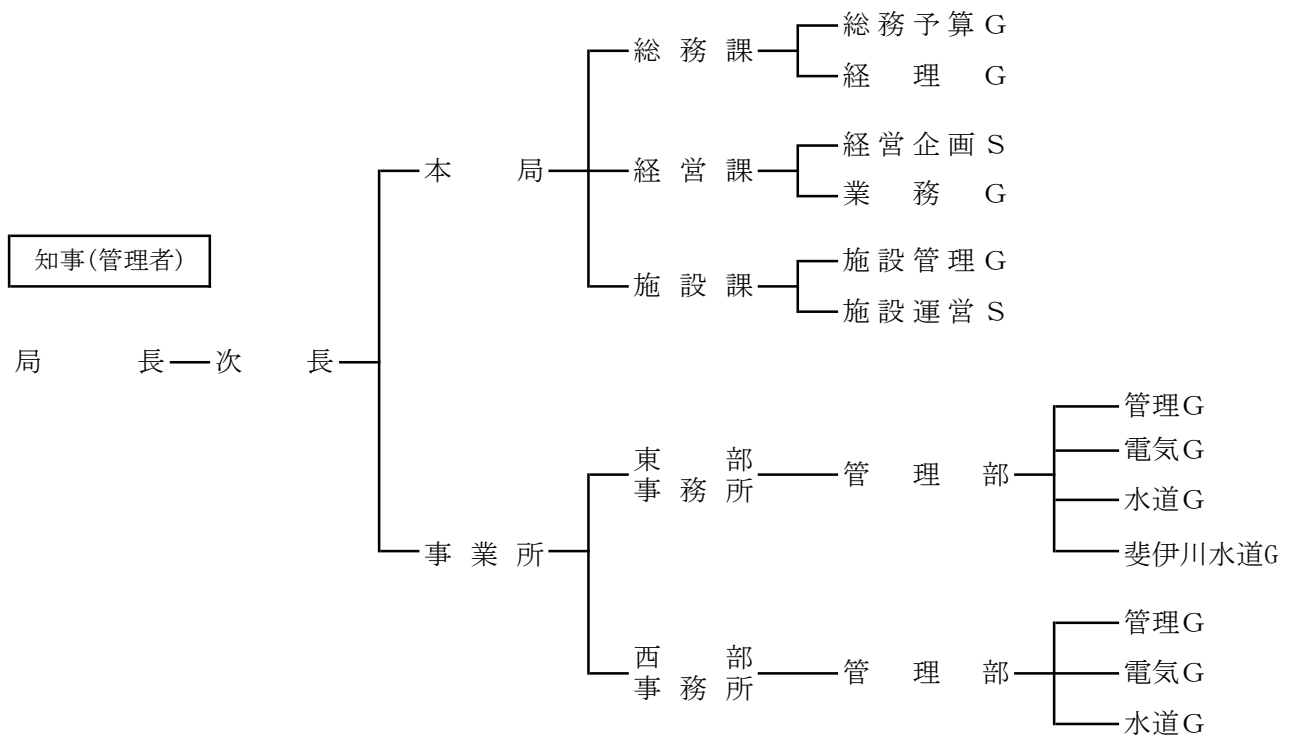
1. 企業局所管事業

(1) 事業

事業名		概要
電気事業	水力発電	三成発電所他、13発電所14発電機 最大出力合計 28,950kW
	風力発電	隠岐大峯山風力発電所 定格出力1,800kW=600kW×3基 江津高野山風力発電所 定格出力20,700kW=2,300kW×9基 出力合計 22,500kW
工業用水道事業	飯梨川工業用水道事業	給水先：松江市、安来市の事業所
	江の川工業用水道事業	給水先：江津地域拠点工業団地の事業所
水道事業	島根県水道用水供給事業	
	飯梨川水道事業	給水先：松江市・安来市
	斐伊川水道事業	給水先：松江市・出雲市・雲南市、斐川宍道水道企業団
	江の川水道用水供給事業	給水先：大田市・江津市
宅地造成事業	江島工業団地	造成面積：21.6ha
	江津地域拠点工業団地	造成面積：21.3ha

(2) 組織

(平成25年3月31日現在)



(3) 職員の配置状況

(単位：人)

区分	平成24年度 (H25. 3. 31)			平成23年度 (H24. 3. 31)			増減			
	定数内	定数外	計	定数内	定数外	計	定数内	定数外	計	
本局	局長・次長	2	—	2	2	—	2	0	—	0
	総務課	10	1	11	11	1	12	△ 1	0	△ 1
	経営課	8	0	8	8	0	8	0	0	0
	施設課	7	1	8	7	1	8	0	0	0
	計	27	2	29	28	2	30	△ 1	0	△ 1
事業所	東部事務所	32	12	44	32	12	44	0	0	0
	西部事務所	18	6	24	18	6	24	0	0	0
	計	50	18	68	50	18	68	0	0	0
合計	77	20	97	78	20	98	△ 1	0	△ 1	

2. 会計別決算の概要

電 気 事 業 会 計

(1) 事業概要

- 水力発電事業は、三成発電所外12発電所で発電。
平成24年度の供給電力量は114,872,878kWhで目標電力量の82.4%。
- 風力発電事業は隠岐大峯山及び江津高野山による2発電所で発電。
平成24年度の供給電力量は32,471,552kWhで目標電力量の83.4%。
- 再生可能エネルギーの固定価格買取制度について、平成24年11月から水力発電所1カ所と風力発電所2カ所を、平成25年3月から水力発電所2カ所を適用。

(2) 収益的収支

- 平成25年度は増収増益
 - ・営業収益は、水力、風力ともに供給電力量は前年度を下回るものの、固定価格買取制度による料金単価のアップにより前年度比128百万円増収
 - ・営業費用は風力発電における修繕費の増などから前年度比58百万円の増
 - ・風力の修繕に係る災害共済金等の事業外収益、企業債利息等の事業外費用などを計上し経常収支は210百万円の黒字
- 平成23年度の修繕に係る災害共済金である特別収益を加え、当期純利益は前年度比134百万円増の215百万円
- 施設別では、水力発電は供給電力量の減などから前年度比9百万円減益の130百万円の黒字
風力発電は、固定価格買取制度の導入によりこれまでの赤字状態から、86百万円の黒字に転換
- 固定価格買取制度による利益額は、水力発電における増収額57百万円と風力発電の純利益86百万円の143百万円

(3) 資本的収支

- 支出は、発電所の配電盤取替工事などの建設改良費と企業債償還金など総額468百万円
- 収入は企業債借入などにより総額55百万円
- 収支不足額413百万円は減債積立金と損益勘定留保資金などにより補てん

(4) 貸借対照表

- 建設仮勘定は江津浄水場太陽光発電施設設計業務委託分8百万円を計上
- 期末現金預金残高は収益的収支の資金増などにより前年度比363百万円の増の1,034百万円
- 内部留保資金は預金と同様な理由で前年度比431百万円の増

《参考》供給電力量

水力発電事業

(単位：kWh)

年 度	目標電力量A	供給電力量B	B/A
24 (a)	139,454,000	114,872,878	82.4%
23 (b)	139,454,000	155,503,456	111.5%
(a)/(b)	100.0%	73.9%	—

風力発電事業

(単位：kWh)

年 度	目標電力量A	供給電力量B	B/A
24 (a)	38,953,000	32,471,552	83.4%
23 (b)	38,953,000	35,900,968	92.2%
(a)/(b)	100.0%	90.4%	—

区分	年度	隠岐大峯山	江津高野山
設備稼働率(%)	24	70.0	88.3
	23	80.0	90.0
設備利用率(%)	24	19.8	16.9
	23	26.2	18.3

(注) ・設備稼働率 = $\frac{\text{年間運転可能時間 (全時間一点検、故障による停止時間)}}{365日 \times 24時間}$

・設備利用率 = $\frac{\text{年間総発電電力量}}{\text{最大出力} \times 365日 \times 24時間}$

平成24年度電気事業会計決算状況

(単位：百万円)

	24年度 (a)	23年度 (b)	比較増減 (a-b)	備 考(前年度対比)
【収益的収支】				
1 営業収益 (A)	1,717	1,589	128	
2 うち水力発電電力料	1,196	1,204	△ 8	固定価格買取制度による増収：57百万円 供給電力量の減(対目標比：111.5%→82.4%)
3 うち風力発電電力料	516	380	136	固定価格買取制度による増収：173百万円 供給電力量の減(対目標比：92.2%→83.4%)
4 営業費用 (B)	1,540	1,482	58	江津高野山風力発電所分修繕費の増
5 営業収支 A-B=C	177	107	70	
6 財務収益・事業外収益 (D)	104	51	53	災害共済金の増等
7 財務費用・事業外費用 (E)	71	88	△ 17	他会計在籍分の退職手当の減等
8 経常収支 C+D-E=F	210	70	140	
9 特別利益 (G)	5	11	△ 6	過年度における風力発電修繕に係る共済金
10 当期純損益F+G	215	81	134	

	24年度 (a)	23年度 (b)	比較増減 (a-b)	備 考(前年度対比)
《施設別当期純損益》				
11 水力発電	130	139	△ 9	供給電力量の減などに伴う料金収入の減による減益
12 風力発電	86	△ 57	143	
13 隠岐大峯山	△ 24	△ 18	△ 6	供給電力量の減に伴う料金収入の減による減益
14 江津高野山	110	△ 39	149	固定価格買取制度の導入に伴う料金収入の増による増益

	24年度 (a)	23年度 (b)	比較増減 (a-b)	備 考(H24内訳：主なもの)
15 資本的収入 X	55	186	△ 131	企業債49百万円、投資回収金6百万円
16 資本的支出 Y	468	633	△ 165	建設改良費79百万円、企業債償還金339百万円、宅 地造成会計へ借入金償還50百万円
17 資本的収支差 X-Y	△ 413	△ 447	34	減債積立金(81百万円)と損益勘定留保資金(332万 円)等で補てん

	期末	期首	比較増減	備 考
【貸借対照表】				
18 固定資産	12,021	12,492	△ 471	主に減価償却による減
19 うち建設仮勘定	8	0	8	江津浄水場太陽光発電に係る設計分の増
20 流動資産	1,325	886	439	
21 うち現金預金	1,034	671	363	収益的収支における資金の増
22 資産合計	13,346	13,378	△ 32	
23 固定負債	442	358	84	退職給与引当金、修繕引当金の増
24 流動負債	99	91	8	未払金の増
25 負債合計	541	449	92	
26 資本金	9,102	9,361	△ 259	企業債償還、他会計借入金返済による減
27 剰余金	3,703	3,568	135	未処分利益の増
28 資本合計	12,805	12,929	△ 124	

	24年度 (a)	23年度 (b)	比較増減 (a-b)	備 考
《内部留保資金》				
29 年度末現在高	1,226	795	431	収益的収支における資金の増

工業用水道事業会計

(1) 事業概要

●飯梨川工業用水道事業

- ・水源：布部ダム ・取水地点：安来市上坂田町地内
- ・給水先：松江市、安来市の31事業所 ・給水能力：日量34,000m³
- ・平成24年度実績：〔使用水量〕日量平均20,078m³、〔料金収入〕128百万円余

●江の川工業用水道事業

- ・水源：八戸ダム ・取水地点：江津市松川町地内
- ・給水先：江津地域拠点工業団地の1事業所 ・給水能力：日量15,000m³
- ・平成24年度実績：〔使用水量〕日量平均2,383m³、〔料金収入〕19百万円余

(2) 収益的収支

- 営業収益は、前年度と変わらず148百万円
- 営業費用は、江の川工水沈殿池等に係る固定資産除却損などにより前年度比36百万円の増
- 営業外収益は神戸川工水の企業債利息に係る補助金や江の川工水の受託工事収益により前年度比27百万円の増
- 営業外費用は、企業債利息の及び受託工事費用の増により前年度比24百万円の増
- 当期純損失は前年度比33百万円増の54百万円(累積欠損金は661百万円)
- 施設別には、飯梨川工水が8百万円の黒字、江の川工水が62百万円の赤字
 - ・飯梨川工水は配水池耐震診断委託等の経費の増により前年度比3百万円減益
 - ・江の川工水は固定資産除却損の計上により前年度比30百万円の欠損金の増

(3) 資本的収支

- 収入は企業債借入などにより総額121百万円
- 支出は、神戸川工水の企業債繰上償還1,515百万円を含めた企業債償還金と建設改良費など総額1,688百万円
- 収支不足額1,567百万円は平成23年度からの繰越資金(一般会計補助金)と損益勘定留保資金により補てん

(4) 貸借対照表

- 資産は、神戸川工水の企業債の繰上償還などにより1,536百万円の減
- 資本金は企業債の償還により1,509百万円の減
- 内部留保資金も同様な理由などにより前年度比1,508百万円の減

《参考》使用水量と料金収入

飯梨川工業用水道事業

(単位：m³、千円)

年 度	年間給水能力A	年間使用量B	売水率B/A	料金収入
24 (a)	12,410,000	7,328,619	59.1%	128,430
	日量 34,000	日量 20,078		
23 (b)	12,444,000	7,422,343	59.6%	129,920
	日量 34,000	日量 20,280		
(a)/(b)	—	98.7%	—	98.9%

江の川工業用水道事業

(単位：m³、千円)

年 度	年間給水能力A	年間使用量B	売水率B/A	料金収入
24 (a)	5,475,000	869,900	15.9%	19,108
	日量 15,000	日量 2,383		
23 (b)	5,490,000	732,179	13.3%	18,307
	日量 15,000	日量 2,000		
(a)/(b)	—	118.8%	—	104.4%

平成24年度工業用水道事業会計決算状況

(単位：百万円)

【収益的収支】		24年度 (a)	23年度 (b)	比較増減 (a-b)	備 考(前年度対比)
1	営業収益 (A)	148	148	0	
2	うち給水収益	148	148	0	飯梨川売水率の減 (59.6%→59.1%) 江の川売水率の増 (13.3%→15.9%)
3	営業費用 (B)	201	165	36	固定資産除却損の増等
4	営業収支 A-B=C	△ 53	△ 17	△ 36	
5	営業外収益 (D)	43	16	27	一般会計補助金の増
6	営業外費用 (E)	44	20	24	企業債利息の増等
7	当期純損益C+D-E	△ 54	△ 21	△ 33	
8	累積欠損金	661	607	54	
《施設別当期純損益》		24年度 (a)	23年度 (b)	比較増減 (a-b)	備 考(前年度対比)
9	飯梨川工業用水道事業	8	11	△ 3	配水池耐震診断委託経費などの増による減益
10	江の川工業用水道事業	△ 62	△ 32	△ 30	固定資産除却損による欠損金の増
【資本的収支】		24年度 (a)	23年度 (b)	比較増減 (a-b)	備 考(H24内訳：主なもの)
11	資本的収入 X	121	3,031	△ 2,910	企業債87百万円、一般会計借入金34百万円
12	資本的支出 Y	1,688	1,558	130	建設改良費92百万円、企業債償還金1,593百万円、他会計借入金償還3百万円
13	資本的収支差 X-Y	△ 1,567	1,473	△ 3,040	H23年度からの繰越資金(1,516百万円)と損益勘定留保資金(46百万円)等で補てん
【貸借対照表】		期末	期首	比較増減	備 考
14	固定資産	5,914	5,923	△ 9	
15	うち建設仮勘定	64	73	△ 9	
16	流動資産	209	1,736	△ 1,527	
17	うち現金預金	195	1,719	△ 1,524	神戸川工水の企業債繰上償還による減
18	資産合計	6,123	7,659	△ 1,536	
19	固定負債	1,706	1,660	46	一般会計借入金、引当金の増
20	流動負債	10	29	△ 19	未払金の減
21	負債合計	1,716	1,689	27	
22	資本金	1,001	2,510	△ 1,509	企業債償還による減
23	剰余金	3,406	3,460	△ 54	欠損金による減
24	資本合計	4,407	5,970	△ 1,563	
《内部留保資金》		24年度 (a)	23年度 (b)	比較増減 (a-b)	備 考
25	年度末現在高	199	1,707	△ 1,508	神戸川工水の企業債繰上償還による減

水 道 事 業 会 計

(1) 事業概要

ア) 島根県水道用水供給事業

●飯梨川水道

- ・水源：布部ダム、山佐ダム
- ・取水地点：安来市上坂田町地内
- ・給水先：松江市、安来市
- ・給水能力：日量52,000m³
- ・平成24年度実績〔使用水量〕日量平均33,387m³、〔料金収入〕451百万円余

●斐伊川水道

- ・水源：尾原ダム
- ・取水地点：雲南市加茂町三代地内
- ・給水先：松江市、出雲市、雲南市、斐川宍道水道企業団
- ・給水能力：日量35,400m³
- ・平成24年度実績〔使用水量〕日量平均21,160m³、〔料金収入〕891百万円余

イ) 江の川水道用水供給事業

- ・水源：八戸ダム
- ・取水地点：江津市松川町地内
- ・給水先：大田市、江津市
- ・給水能力：日量27,000m³
- ・平成24年度実績〔使用水量〕日量平均13,122m³、〔料金収入〕352百万円余

(2) 収益的収支

- 営業収益は江の川水道の料金改定等により前年度比21百万円減収の1,697百万円
- 営業費用は斐伊川水道のダム使用権の減価償却の開始などから前年度比150百万円増の1,453百万円
- 営業外収益は一般会計補助金の減などにより前年度比46百万円減、営業外費用は企業債利息等の減により前年度比46百万円の減
- 特別損失は固定資産売却損の減により前年度比59百万円減の55百万円
- 当期純利益は前年度比112百万円減の25百万円
- 施設別には、施設毎にそれぞれ水道料金算定時の経費見込みと実績の差異などにより、飯梨川水道が1百万円、斐伊川水道が33百万円の赤字、江の川水道が59百万円の黒字

(3) 資本的収支

- 支出は、ポンプ設備やろ過池設備の改良工事や耐震化工事などの建設改良費と企業債償還金など総額813百万円
- 収入は企業債借入、出資金収入などにより総額7百万円
- 収支不足額806百万円は減債積立金と損益勘定留保資金などにより補てん

(4) 貸借対照表

- 建設仮勘定は尾原ダムの完成によりダム使用権の本勘定への振替による減
- 現金預金は収益的収支の減価償却費などの資金により前年度比68百万円の増
- 内部留保資金は収益的収支の資金増などにより前年度比115百万円の増

《参考》使用水量と料金収入

飯梨川水道事業

(単位：m³、千円)

年 度	年間給水能力A	年間使用量B	売水率B/A	料金収入
24 (a)	18,980,000	12,186,119	64.2%	451,064
	日量 52,000	日量 33,387		
23 (b)	19,032,000	12,316,816	64.7%	444,701
	日量 52,000	日量 33,653		
(a)/(b)	—	98.9%	—	101.4%

斐伊川水道事業

(単位：m³、千円)

年 度	年間給水能力A	年間使用量B	売水率B/A	料金収入
24 (a)	12,921,000	7,723,437	59.8%	891,824
	日量 35,400	日量 21,160		
23 (b)	12,956,400	7,403,627	57.1%	883,679
	日量 35,400	日量 20,228		
(a)/(b)	—	104.3%	—	100.9%

江の川水道事業

(単位：m³、千円)

年 度	年間給水能力A	年間使用量B	売水率B/A	料金収入
24 (a)	9,855,000	4,789,611	48.6%	352,982
	日量 27,000	日量 13,122		
23 (b)	9,882,000	4,794,705	48.5%	388,510
	日量 27,000	日量 13,100		
(a)/(b)	—	99.9%	—	90.9%

平成24年度水道事業会計決算状況

(単位：百万円)

【収益的収支】		24年度 (a)	23年度 (b)	比較増減 (a-b)	備 考(前年度対比)
1	営業収益 (A)	1,697	1,718	△ 21	
2	うち給水収益	1,696	1,716	△ 20	江の川水道の料金改定による減
3	営業費用 (B)	1,453	1,303	150	斐伊川水道の減価償却費及びダム管理費負担金の増
4	営業収支 A-B=C	244	415	△ 171	
5	営業外収益 (D)	58	104	△ 46	一般会計補助金及び退職手当他会計負担収入分の減
6	営業外費用 (E)	222	268	△ 46	企業債利息及び退職手当他会計負担分の減
7	特別損失 (F)	55	114	△ 59	固定資産売却に伴う損失の減
8	当期純損益C+D-E-F	25	137	△ 112	

《施設別当期純損益》		24年度 (a)	23年度 (b)	比較増減 (a-b)	備 考(前年度対比)
9	飯梨川水道事業	△ 1	△ 68	67	固定資産売却損の減
10	斐伊川水道事業	△ 33	84	△ 117	尾原ダム減価償却費及びダム管理費負担金の発生
11	江の川水道事業	59	121	△ 62	料金改定による収入減

【資本的収支】		24年度 (a)	23年度 (b)	比較増減 (a-b)	備 考(H24内訳：主なもの)
12	資本的収入 X	7	129	△ 122	企業債5百万円、出資金2百万円
13	資本的支出 Y	813	1,092	△ 279	建設改良費54百万円、企業債償還金698百万円、長期借入金償還金60百万円
14	資本的収支差 X-Y	△ 806	△ 963	157	減債積立金(137百万円)と損益勘定留保資金(666百万円)等で補てん

【貸借対照表】		期末	期首	比較増減	備 考
15	固 定 資 産	46,740	47,591	△ 851	
16	うち建設仮勘定	18	7,549	△ 7,531	斐伊川水道尾原ダム使用权の本勘定振替
17	流 動 資 産	893	854	39	
18	うち現金預金	731	663	68	収益的収支における資金の増
19	資 産 合 計	47,633	48,445	△ 812	
20	固 定 負 債	866	874	△ 8	修繕準備引当金の減
21	流 動 負 債	60	136	△ 76	未払金の減
22	負 債 合 計	926	1,010	△ 84	
23	資 本 金	29,513	30,128	△ 615	企業債償還による減
24	剰 余 金	17,194	17,307	△ 113	当年度未処分利益剰余金の減
25	資 本 合 計	46,707	47,435	△ 728	

《内部留保資金》		24年度 (a)	23年度 (b)	比較増減 (a-b)	備 考
26	年度末現在高	833	718	115	収益的収支における資金の増

宅 地 造 成 事 業 会 計

(1) 事業概要

- 江島工業団地及び江津地域拠点工業団地の管理・分譲を行っている。
平成24年度は江島工業団地において2件、2,273.06㎡の売却を行った。
- 江島工業団地
 - ・分譲対象面積：21.60ha
 - ・分譲済面積：19.99ha(分譲率92.5%)
- 江津地域拠点工業団地
 - ・分譲対象面積：21.32ha
 - ・分譲済面積：13.53ha(分譲率63.5%)

(2) 収益的収支

- 営業収益は、江島工業団地の分譲による売却収入等により38百万円
- 営業費用は、分譲に係る原価の計上と管理経費により38百万円
- 営業外収益は、土地貸付料等により1百万円
- 当期純損益は1百万円の利益

(3) 資本的収支

- 収入は、平成22年度に電気会計へ貸し付けた貸付金の回収により50百万円
- 支出は、江津地域拠点工業団地の用地調査等の実施と一般会計借入金償還金により26百万円

(4) 貸借対照表

- 資産は、江島工業団地の売却による完成宅地の減などにより13百万円の減
- 負債は、借入金、未払金の減などから前年度比14百万円の減
- 内部留保資金は貸付金の回収資金などにより前年度比60百万円の増

《参考》分譲状況

(単位：㎡)

団地名	工業用地面積	造成済面積(A)	分譲済面積(B)	分譲率(B/A)	分譲単価(円/㎡)
江島工業団地	216,056	216,056	199,864	92.5%	14,300
江津地域拠点工業団地	477,200	213,231	135,304	63.5%	12,000

平成24年度宅地造成事業会計決算状況

(単位：百万円)

	24年度 (a)	23年度 (b)	比較増減 (a-b)	備 考(前年度対比)
1 【収益的収支】				
1 営業収益 (A)	38	5	33	江島における売却収入による増
2 営業費用 (B)	38	8	30	売却に伴う原価を計上
3 営業収支 A-B=C	0	△ 3	3	
4 営業外収益 (D)	1	1	0	
5 当期純損益C+D-E	1	△ 2	3	

	24年度 (a)	23年度 (b)	比較増減 (a-b)	備 考(H24内訳：主なもの)
6 資本的収入 X	50	0	50	電気会計への貸付金の回収
7 資本的支出 Y	26	24	2	土地造成費21百万円、一般会計借入金償還金5百万円
8 資本的収支差 X-Y	24	△ 24	48	

	期末	期首	比較増減	備 考
9 【貸借対照表】				
9 固定資産	14	69	△ 55	
10 うち投資	14	68	△ 54	貸付金の回収等による減
11 宅地造成	1,895	1,904	△ 9	
12 うち完成宅地	1,015	1,040	△ 25	江島工業団地の売却による減
13 うち未成宅地	880	864	16	江津地域拠点工業団地の用地調査による増
14 流動資産	123	72	51	貸付金の回収、江島売却収益による増
15 うち現金預金	89	70	19	貸付金回収等による増
16 資産合計	2,032	2,045	△ 13	
17 固定負債	1,670	1,675	△ 5	一般会計借入金償還による減
18 流動負債	8	17	△ 9	未払金の減
19 負債合計	1,678	1,692	△ 14	
20 資本金	304	304	0	
21 剰余金	50	49	1	当期純利益による増
22 資本合計	354	353	1	

	24年度 (a)	23年度 (b)	比較増減 (a-b)	備 考
23 《内部留保資金》				
年度末現在高	115	55	60	貸付金の回収、江島売却収益による増

3. 剰余金の処分及び欠損金の処理について

剰余金処分計算書

(単位：円)

区 分	電 気 事 業 会 計	水 道 事 業 会 計	宅 地 造 成 事 業 会 計
1. 利益処分対象額			
(1)前年度繰越利益剰余金	0	0	0
(2)当 年 度 純 利 益	215,659,871	24,505,180	1,224,573
(3)資 本 剰 余 金 処 分 額	0	8,421,030	0
計 (当年度未処分利益剰余金) A	215,659,871	32,926,210	1,224,573
2. 利益剰余金処分量			
(1)減 債 積 立 金 B	75,659,871	32,926,210	0
(2)利 益 積 立 金 C	0	0	1,224,573
(3)地 域 振 興 積 立 金 D	140,000,000	0	0
3. 翌年度繰越利益剰余金 (A-B-C-D)	0	0	0

●電気事業は、未処分利益剰余金215百万円余のうち固定価格買取制度適用に伴う利益分140百万円を再生可能エネルギーの利用促進等の資金として地域振興積立金に、残額75百万円余を企業債償還財源として減債積立金に積み立てる。

●水道事業は、未処分利益剰余金32百万円余を企業債償還資金として減債積立金に積み立てる。

●宅地造成事業は、未処分利益剰余金1百万円余を今後の損失に備えて利益積立金に積み立てる。

欠損金処理計算書

(単位：円)

区 分	工 業 用 水 道 事 業 会 計
1. 欠損金処理対象額	
(1)前年度繰越欠損金	△ 606,639,141
(2)当 年 度 純 損 失	△ 53,816,684
(3)資 本 剰 余 金 処 分 額	32,044,365
計 (当年度未処理欠損金) E	△ 628,411,460
2. 欠損金処理額	
(1)利 益 積 立 金 取 崩 F	0
3. 翌年度繰越欠損金 (E-F)	△ 628,411,460

●工業用水道事業は資本剰余金32百万円余を処分して損失を補てんし、未処理欠損金628百万円余は次年度へ繰り越す。

※資本剰余金処分…地方公営企業法の改正(H24年4月施行)により条例の制定又は議会の議決が必要補助金等をもって取得した資産を除却した際に、帳簿上の残存価格を除却損として計上した費用について当該補助金等を取り崩してうめるもの

4. 資金不足比率について

地方公共団体の財政の健全化に関する法律（平成19年法律第94号）第22条第1項の規定に基づく公営企業（企業局）の資金不足比率については、下記のとおりであり、各会計において資金不足は発生していない。

◆電気事業会計	資金不足比率	－%	（資金不足なし）
◆工業用水道事業会計	資金不足比率	－%	（資金不足なし）
◆水道事業会計	資金不足比率	－%	（資金不足なし）
◆宅地造成事業会計	資金不足比率	－%	（資金不足なし）

なお、資金不足比率が経営健全化基準である20%を超過すると、経営健全化計画の策定が必要となる。

$$\text{資金不足比率} = \frac{\text{資金の不足額}}{\text{事業の規模}}$$

- ・資金の不足額＝流動負債－流動資産
- ・事業の規模（宅地造成事業以外）＝営業収益の額－受託工事収益の額
- ・事業の規模（宅地造成事業）＝負債＋資本